

# *Acta Epsilonica*

Volume 1, Number 4, Pages 101–102.

Received: July 17th, 2016, Accepted: August 20th, 2016.

## Group Epsilon Meeting 2016 #4 開催報告

荻田裕也\*

2016年に入って4回目の集まりが、6月26日に開催されました。今回の発表では、古澤えりさん、篠田太郎さん、山下弘一郎さんの3名の方がお話して下さいました。どの発表者の方も全く異なる分野、視点の話をして下さり、epsilonの学際性を実感できる会でした。

古澤さんの発表“建築の境界線 part 2 — 超高層ビルは建築か —”では、彼女自身の卒業制作の作品を例にとって、建築のデザインが生まれる過程をお話いただきました。古澤さんはたくさんのアイデアを泡のように発想する一方で、足や手を動かして場所や形の方向性も模索していきます。生み出したアイデアを取捨選択し、審査員の先生を論理的に納得させるストーリーに収束させていく過程からは、科学の研究にも通じる部分があるように感じました。発表後の質疑応答も非常に活発に行われ、特に、企業にて製品のデザインに携わっていらっしゃる久保田栄一さんとの間では、デザインを考える上での共通する問題意識について熱い議論が交わされました。

篠田さんの発表“合理性と経済実験学”は、美人投票ゲームとよばれる経済実験の実演から幕を開けました。経済学では、理論の予想と現実が乖離してしまうことが多々あります。その中で、経済実験は、理論が見落としている要素を発見するために非常に有効なアプローチとなります。今回の発表では、協力ゲーム理論に焦点をあてて、提携形成と利得分配の理論について説明して下さいました。篠田さんは、経済実験を通して、協力ゲームにおけるコアの有無が全体提携と部分提携の形成に与える影響を研究されています。今回の発表に関連する経済実験は今年中に実行される計画のようです。実験の結果について、そのうち再びepsilonで発表して下さいることを楽しみに待っています。

山下さんの発表“AI: 人間が負けた。アタリマエでしょ!?”では、生物の進化と人工知能の学習アルゴリズムとの類似を出発点として、Darwinismの出現にともなった思想の変遷と、昨今の人工知能の発展をつなげる考察についてお話いただきました。人工知能を扱う発表が、Darwinの進化論とLockeの“人間悟性論”の対比からはじまるという構成は、哲学者ならではです。山下さん本人が墓堀りと自虐する文献学に基づいた知見は示唆に富んでおり、ともすれば専門分野に終始しがちな学生に新たな視点を与えて下さる興味深い発表でした。運営者個人としては山下さんには感謝と申し訳なさで一杯です。というのも、山下さんは直前のタイムスケジュールの変更にとまって、急遽、

---

\* Group Epsilon Meeting 2016 #4 実行委員長, University of California, Berkeley, four\_seasons0702 (at) yahoo.co.jp.

発表を準備して下さったからです。当初想定していた discussion という形は、当日になって講演の形式に変更いたしました。さらに、私のタイムマネジメントの失敗から山下さんには時間に追われる形で発表をお願いしてしまいました。この場を借りて、山下さんには感謝とお詫びを申し上げたいと思います。

全体を通した反省としましては、タイムマネジメントと機材準備の2点を挙げたいと思います。まず、今回は終了時間に30分の余裕を持たせ撤収の時間に当てる予定をたてておりましたが、当日は議論が白熱し、結果的に撤収時には会場の予約時間をオーバーしてしまいました。終了時間に1時間程度の余裕を持たせるとともに、臨機応変に休憩時間を短縮するべきであったと反省しています。もう一点、機材準備に関しては、現在は特定の人(特に田中さん)に負担が集中している状態です。共有の備品を購入したり、機材の管理を一括にまとめるシステムを構築するなど、対応策を考える必要があります。

今回の meeting はみなさんが多忙な時期での開催でしたが、多くの方に参加いただき、楽しい時間を過ごすことができました。3名の発表者の方々のみならず、教室を提供して下さったZ会の方々、運営を手伝って下さった田中さん、廣さん、隅田さん、そして発表の review を担当して下さった滝脇さん、深津さんには、あらためてお礼を申し上げます。発表の quick review が web page に公開されておりますので、是非ご確認ください。



図1 参加者の集合写真